

慢性 C 型肝炎透析患者における肝線維化の男女差について

西沢 蓉子 小川 哲也

東京女子医科大学東医療センター内科・血液浄化部

【目的】透析患者の慢性 C 型肝炎(HCV)は直接作用型抗ウイルス薬(DAA)により治療可能となったが、HCV 消失後も肝線維化は進行する.肝線維化の画像評価として、肝臓 MR エラストグラフィー(MRE)は肝生検に匹敵する精度がある.血清マーカーとして、Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi)は HCV 治療後のモニタリングとして有用視されているが、透析患者での動態は不明である.また、女性ホルモンの一つであるエストラジオールは、肝線維化を抑制することが報告されているが、肝線維化進展に男女差があるかは不明である.

【方法】東京女子医科大学東医療センター内科に通院中の HCV-RNA 陽性透析患者を対象に、DAA 治療前後で MRE と M2BPGi の測定を行い、その変化と男女差を検討した.

【結果】全 5 名のうち、男性 3 名、糖尿病 3 名、肝硬変(LC)1 名であった.年齢 63.6 ± 14.3 歳、透析歴 28 ± 29 ヶ月、BMI $25.0 \pm 7.1 \text{ kg/m}^2$ 、全例 Genotype1 高ウイルス量であり DAA 治療後 12 週時点で HCV 陰性化を確認した.治療開始前の MRE は LC, 非 LC で各々 $5.6, 2.3 \text{ kPa}$ と LC で高値を示し、治療後も不変であった.一方 M2BPGi 値は、治療前および治療後 36 週時点(中央値)で各々 LC $2.59 \rightarrow 1.51$ 、非 LC $1.88 \rightarrow 1.53$ と、両群で治療後に低下した.男女別に検討すると、治療前後の M2BPGi 値は、女性 $2.71 \rightarrow 2.32$ 、男性 $1.17 \rightarrow 0.91$ と女性で高値であった.

【考察】M2BPGi は非透析患者では女性、高齢、心不全、生活習慣病で高値となると報告されている.透析患者でも女性で高値を示し、治療後に低下する傾向が確認された.